

脳と才能

連載第4回
酒井 邦嘉
東京大学教授・言語脳科学者

「言葉は各個人の創作だ」

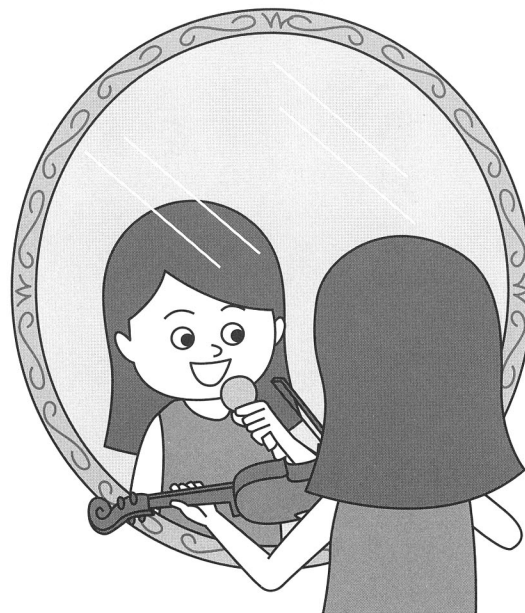
『鈴木鎮一のことば集 一心を育てる』 p.55
(公益社団法人才能教育研究会、2018年)より。
才能教育研究会本部事務局、東京事務所販売
中。アマゾンでも購入可。500円(税込)

鈴木鎮一先生のお言葉を紹介しながら、その奥義おうぎを科学で考えるという連載です。才能教育研究会がめざす「才能」には、どのような意味が込められているのでしょうか。そしてその才能は、脳のどんな働きに支えられているのでしょうか。

今回は、才能の基礎となる「言葉」と「心」のつながりについて考えてみましょう。よく、「言葉では気持ちを十分に表せず、本当の心は伝えられない」と言われますが、はたしてそうでしょうか。鈴木先生は次のように述べています。「言葉と言うものは不自由なものではない。自分の考えは、言語と言うものを通して生まれて来ているはずであるし、またその中に、たとえ言語以上の感覚、直感、から生まれたものがあるにしても、そこにはその直感が生まれるまでの心理的環境と歴史が自分の中にはあったはずである」(同 p.55)
話し手の脳には、その人自

身の「心の環境と歴史」が刻まれていますから、その影響が自然と言葉に現れるのです。私の経験ですが、30年ぶりに中学校の同窓会に出てみたところ、みんなの話し方が当時とほとんど変わっていないことに驚いたことがあります。地域や世代などによって「方言(dialect)」があるのと同じように、個人の言葉にも「個人語(idiolect)」と呼ばれる決まった型があるということを実感しました。言葉の表現には、自身の個性的な心が投影されていて、まさに「各個人の創作」なのです。
◇
人工知能の進歩により、言葉を話す機械が身近なものに

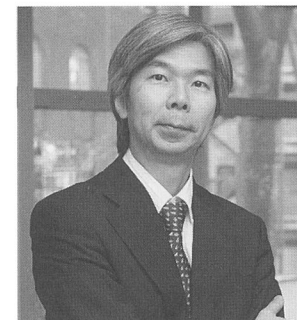
なりつつあります。しかし、音声を合成してうまく話すように見えても、そこに「心」があるとは限りません。実際、話す人の意図を理解したり、特定の相手にわかるように話したりするような人工知能は、研究が最も遅れています。言葉とは、心の状態を脳でいわば「圧縮」して生み出したものですから、そのような言葉から話し手の心を「解凍」することは、高性能のコンピュータを持ってしても至難の業なのです。
それでは、言葉にどんな働きがあるのでしょうか。アメリカの言語学者であるノーム・チョムスキーは、言語はハンマーのようなもので、何にで



「うん、その弾き方、いいね」とか「そこは、もっと歌ってみたら」などと、鏡に映った自分の演奏に対して、聴衆の目線で語りかけてみるのもおすすめです

も使えると言っています。確かに、言葉を使って物事を考えたりできますし、言葉で日々の記録を残したり、詩や小説を書いたりできますね。言葉を使うこと自体が創作なので、芸術の創作でも言葉が基礎になっています。
◇
さらに鈴木先生は、「自分の心」と「相手の心」をつなぐ言葉の働きについて、次のように述べています。
「自分の考え、自分の感じを、相手次第によって、どのように伝えるべきか、一人一人うけとり方が違うかもしれない他人に、ただ単に自分の思うままを語っている拙さについて今私は反省の最

中である」(同 p.55)
これには誰も思い当たることがあるでしょう。生徒は先生に思うように質問できないものですし、先生も生徒に言葉だけで説明や指示をするのは大変です。親子や兄弟同士であってもそうでしょう。そして根元にある価値観まで違うかもしれないのです。本当の意味で「話せばわかる」ためには、相手が自分と同じような心を持っていないことにならないこととなります。
ところが、自分と相手がまったく違う考えを持っていることで、会話が深まったり、楽しくなったりすることもあります。将棋や囲碁などでは、



酒井邦嘉(さかいくによし)
1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能をイメージング法などで研究している。主著に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』(中公新書)、『脳の言語地図』『ことばの冒険』『こころの冒険』『脳の冒険』(明治書院)、『脳を創る読書』『考える教室』(実業之日本社)、『芸術を創る脳』『高校数学でわかるアインシュタイン』(東京大学出版会)。

持ち味の異なる棋士(例えば昭和の名棋士、大山康晴と升田幸三)の対戦ほど、一層奥深く、スリリングな展開になるものです。「棋は対話なり」と言われるのもうなずけます。
音楽もまた、言葉による対話と同じです。「自分の考え、自分の感じを、相手次第によって一人一人受け取り方が違うかもしれない他人に、ただ単に自分の思うままを」演奏で伝えるのは本当に難しいことです。一人で演奏するときも、鏡に映った自分を相手(聴衆)に見立てて語りかけ、反省しながら練習していると、一層上達するのではないのでしょうか。演奏も各個人の創作なのですから。